



サハリン樺太史研究会
2017年度活動報告書

2018年7月31日
サハリン樺太史研究会

—2017 年度活動報告書—

目次

会長あいさつ

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付：参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付：参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。年度活動報告書も 2008 年度分から刊行し、2017 年度活動報告書は 10 冊目の年度活動報告書となる。

2011 年度分以降、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承ください。

2018 年 7 月 31 日

中山大将

（サハリン樺太史研究会世話人兼公式HP運営担当者）

—会長あいさつ—

サハリン・樺太は、前近代においては先住民を担い手とした、大陸側から千島列島にいたる海を介した交易ルートの一環であり、近代には日本とロシアの接触地域をなし、両国間で何度も国境線の引き直しと大規模な人口移動が繰り返された特異な歴史を有する島です。

この島の呼称も、幕末までは「北蝦夷地」とよばれ、明治初年から「樺太」とよばれるようになり、全島ロシア領有に変わると「薩哈噠」の3文字が当てられました。日露戦争後の北緯 50 度以南日本領有により、ふたたび「樺太」となり、第二次世界大戦後はサハリンと呼ぶことが一般的となりました。

近年、この島に改めて歴史研究の光を当て、この島の住民が幾世代にも亘って関わった歴史的経験を捉え直そうとする機運が日本、ロシア双方で高まりつつあります。また、日本とロシアとの研究交流は、今世紀に入り、活発に行われるようになりました。たとえば、北海道大学スラブ研究センターとサハリン大学を拠点として、「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」第 5 回研究会「サハリン・樺太の歴史」(2004 年 7 月 29 日～30 日)、同第 11 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅰ)」(2005 年 9 月 21 日)、同第 13 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅱ)」(2005 年 12 月 3 日)、「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」(2005 年 11 月 1 日～2 日、2006 年 2 月 16 日～17 日)、「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」(2008 年 5 月 6 日～7 日)と幾度も研究会が開催されてきました。そして 2008 年の「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」開催後に、シンポジウム参加者を中心に 2008 年 7 月、サハリン・樺太史研究会が発足しました(初代会長：原暉之北海道大学名誉教授)。

サハリン・樺太史研究会は、これまでの樺太史・サハリン史研究が日本、ロシアにおいて、それぞれ別個に行われてきたことを踏まえ、双方の研究成果を学ぶとともに双方の研究成果の交流、資料保存情報の交流などの研究交流を進め、「一國史」にとらわれないサハリン・樺太史を描くことを目標としています。

本会は札幌を拠点として研究会、シンポジウムを定期的に(年間 5 回程度)開催しております。これら研究会、シンポジウムは参加自由で、どなたでも参加できます。サハリン・樺太史の研究に関心をお持ちの方は、本会事務局にお知らせいただけましたら、案内メールを差し上げます。

2013 年 12 月 17 日

サハリン樺太史研究会会長 白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科教授)

—活動概要—

樺太通史『樺太四〇年の歴史』書評会

昨年度刊行された原暉之・天野尚樹編著『樺太四〇年の歴史：四〇万人の故郷』（全国樺太連盟、2017年）の書評会が第43回例会で行なわれた。書評会では、本書が樺太史研究の到達点を示すものであるという評価と同時に、章の間で叙述方法にばらつきがあり、どのような読者を実際に想定しているのかが不明瞭であるという率直な意見も見られた。今回の通史刊行を通して、わかりやすく分量も少ない一般書的通史と、専門的で分量も記述も充実した専門書的通史というふたつの型の通史の必要性が改めて明らかになった。

科研「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」始動

白木沢旭児会長が代表を務める科学研究費補助金「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」（基盤研究(A)、2017-2020年度）が採択された。同研究プロジェクトは、戦後の引揚げや抑留まで視野に入れて日ソ戦争の総合的歴史研究を目指す共同研究であり、サハリン・樺太もその重要な一角を占めている。本年の第45回例会では同科研が招聘したニコライ・ヴィシュネフスキー氏（元・サハリン州郷土博物館館長）が「知取協定と樺太における戦争の終結」という報告を行ない、日本側研究者や関係者には周知の事実である「知取協定」がロシア側の専門家にもほとんど知られていないということが紹介された。

『知られざる本土決戦南樺太終戦史：日本領南樺太十七日間の戦争』刊行

戦後の樺太引揚げやサハリン残留・帰国者に関する研究は進みつつあるものの、ソ連樺太侵攻自体に対する戦史・軍事史研究はほとんど進展していない状況が続いていたが、藤村建雄会員が文献資料や聞き取り調査、現地調査を基に労作『知られざる本土決戦南樺太終戦史：日本領南樺太十七日間の戦争』（潮書房光人社）を上梓された。ソ連樺太侵攻を今後再検証するための重要な土台となることが期待される。

戦没・遺骨・慰霊

第46回例会では、ソ連樺太侵攻時の豊原空襲犠牲者の遺骨収集のための自身の活動について尾形芳秀会員が、戦後にサハリン各地に建立された日本人慰霊碑等の由来と現状について中山大将会員が報告した。特に尾形会員の活動は、日ソ戦にどう向き合うのかという問題とも直結している。

ソ連占領初期南サハリン史料勉強会

兎内勇津流会員が主催するソ連占領初期のソ連公文書の勉強会は、引き続き活動を続けている。

(2017年度末会員数:105名)

(2017年度HP訪問数:2,266回、閲覧数:5,267回)

—例会・関連シンポジウム等—

■ 第 42 回例会

日時:2017 年 7 月 22 日

場所:北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W201 室

報告 1 日本領期の樺太における温泉開発と樺太島民 ……………池田貴夫(北海道博物館)

報告 2 東京地学協会の政治基盤と榎本武揚:樺太放棄論からアジア主義の形成へ

……………武藤三代平(北海道大学大学院文学研究科専門研究員)

■ 第 43 回例会

日時:2017 年 10 月 28 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W201

書評 原暉之・天野尚樹編著『樺太四〇年の歴史:四〇万人の故郷』(一般社団法人全国樺太連盟、2017 年)

評者 塩出浩之(琉球大学)

竹野 学(北海商科大学)

山田伸一(北海道博物館)

■ 第 44 回例会

日時:2017 年 10 月 31 日

場所:北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W201 室

報告 樺太の気象観測史 ……………山本晴彦(山口大学)

第 45 回例会

日時:2017 年 12 月 2 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W201

報告 知取協定と樺太における戦争の終結 …………… ニコライ・ヴィシュネフスキー(元・サハリン州郷土博物館館長)
評者 …………… 天野尚樹(山形大学)
通訳 …………… 小山内道子

主催 サハリン・樺太史研究会

共催 科研:基盤究(A)「日ソ戦争および後の引揚・抑留に関する総合的研究」

北海道大学院文研究科方教育センター

第 46 回例会

日時:2018 年 2 月 10 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 403 室

報告 1 忘れられた樺太島民:豊原空襲の死没者……………尾形芳秀(樺太郷土史研究会/全国樺太連盟)
報告 2 サハリンにおける日本人慰霊碑等の由来と現状:2016 年現地調査報告
……………中山大将(京都大学/NPO 法人日本サハリン協会)

共催 科研基盤研究(A)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」

北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

第 47 回例会

日時:2018 年 2 月 24 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 403 室

報告 1 「ロシアパン」と樺太残留ロシア人:明治末の東京での「ロシヤパン」ブームから戦前の樺太まで
……………倉田有佳(ロシア極東連邦総合大学函館校准教授)
報告 2 樺太の土工部屋と樺太産業が土工部屋に及ぼした影響:1905(明治 38)年から 1935(昭和 10)年を中心に
……………大藤寛之(札幌大学大学院文化科学研究科)

—研究成果刊行物—

(五十音順)

東俊佑 近世史

【定期刊行物】

東俊佑「土人給料勘定」のしくみ(1):北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析『北海道博物館研究紀要』3号、2018年3月。

天野尚樹 ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

【論文集】

天野尚樹「樺太における「国内植民地」の形成:「国内化」と「植民地化」今西一『帝国日本の移動と動員』大阪大学出版会、2018年1月31日。

【定期刊行物】

天野尚樹「田舎の「革命」:革命・内戦期サハリン島の地域構造」『アリーナ』20号、2017年11月19日。

池田裕子 教育史

【定期刊行物】

池田裕子「樺太における女子教育(1):私立大泊女学校の樺太庁移管を中心に」『東海大学国際文化学部紀要』10号、2017年。

井澗裕 建築史

【論文集】

井澗裕「明治大正期の樺太・サハリンにおける公娼と半公娼」今西一『帝国日本の移動と動員』大阪大学出版会、2018年1月31日。

神長英輔 漁業史

【論文集】

神長英輔「旧ソ連・ロシアの華僑華人」華僑華人の事典編集委員会『華僑華人の事典』丸善出版、2017年11月30日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 木村由美 …………… 日本近代史

【定期刊行物】

木村由美「樺太深海村からの引揚げ:『引揚者在外事実調査票』による分析」『北方人文研究』11 号、
2018 年 3 月 31 日。

■ 倉田有佳 …………… 来日ロシア人史

【定期刊行物】

倉田有佳「日本軍の北樺太占領末期に函館に避難してきたロシア人(1925 年 4 月～5 月)」『函館日口
交流史研究会会報』37 号、2017 年 7 月。

■ 鈴木仁 …………… 文化史

【定期刊行物】

鈴木仁「樺太庁長官物語 第 11 代長官 岸本正雄」『樺連情報』805 号、2017 年 5 月 1 日。
鈴木仁「「樺太史」編纂の歴史」『樺連情報』809 号、2017 年 9 月 1 日。
鈴木仁「樺太における史跡選定と顕彰事業の展開」『道歴研年報』18 号、2017 年 9 月。
鈴木仁「樺太庁長官物語 第 2 代長官 床次竹二郎」『樺連情報』811 号、2017 年 11 月 1 日。

■ 醍醐龍馬 …………… 外交史

【定期刊行物】

醍醐龍馬「外務卿副島種臣と日露領土交渉:樺太千島交換条約への道筋 (グローバルヒストリーから
見た世界秩序の再考)」『国際政治』191 号、2018 年 3 月。

■ 谷本晃久 …………… 近世史

【定期刊行物】

谷本晃久「近代初頭における札幌本府膝下のアイヌ集落をめぐって:「琴似又市所有地」の地理的布
置再考」『北方人文研究』11 号、2018 年 3 月 31 日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀
要、会誌などに掲載された論文など。

田村将人…………… アイヌ史

【定期刊行物】

田村将人「資料紹介 先住民族政策に関する樺太庁文書」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3号、2018年3月。

出村文理…………… 出版史

【定期刊行物】

プロコフィエフ M.M.(著)、出村文理(解説)、垣内あと(翻訳)、菊池俊彦、野村崇(監修)「プロコフィエフ M.M.著『南樺太・千島列島の日本人研究者 履歴と業績』:ロシア人学者の論評」『鳥居龍蔵研究』4号、2018年3月26日。

兎内勇津流…………… ロシア史

【定期刊行物】

兎内勇津流「第二次世界大戦期サハリン周辺海域の航行問題」『ロシア史研究』99号、2017年7月。

中山大将…………… 農業史・移民史

【論文集】

中山大将「樺太の中国人」華僑華人の事典編集委員会『華僑華人の事典』丸善出版、2017年11月30日。

【定期刊行物】

中山大将「中華民国および中華人民共和国におけるサハリン樺太史研究：台湾と大陸における庫頁島中国固有領土論の系譜」『近現代東北アジア地域史研究会 News Letter』29号、2017年12月2日。

中山大将「樺太および台湾の農業試験研究機関の活動から見る日本帝国外地の近代化(第26回近現代東北アジア地域史研究会大会報告)」『近現代東北アジア地域史研究会 News Letter』29号、2017年12月2日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 藤村建雄 軍事史

【著書】

藤村建雄『知られざる本土決戦南樺太終戦史:日本領南樺太十七日間の戦争』潮書房光人社、2017年8月。

■ 楊素霞 日本近代史

【定期刊行物】

楊素霞「日露戦後における北方政策の可能性とその挫折:北海道内の北海道・樺太合併論を通じて」『社会システム研究』36号、2018年3月。

参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【定期刊行物】会田理人「全道樺太実業野球大会」『北海道博物館研究紀要』3号、2018年3月。
- 【著書】井上紘一(訳編・解説)『プロニスワフ・ピウスツキのサハリン民族誌:二十世紀初め前後のエンチウ、ニヴフ、ウイルタ』東北大学東北アジア研究センター、2018年1月。
- 【著書】浦安市郷土博物館編『測量をめぐる浦安の偉人宇田川徳太郎:ロシアとの国境線をつくった男 新収蔵品展(浦安市郷土博物館調査報告第15集)』浦安市郷土博物館、2018年3月。
- 【論文集】小川正樹「北海道の華僑」華僑華人の事典編集委員会『華僑華人の事典』丸善出版、2017年11月30日。
- 【定期刊行物】カリネー マランジャー(訳 広岡直子)「樺太旧蔵書のゆくえ:2016年7月北海道大学におけるシンポジウム資料による」『ユーラシア研究』56号、2017年8月。
- 【著書】近世繪圖地圖資料研究会編『江戸時代における北方圖解題目録』科学書院、霞ヶ関出版、2018年1月。
- 【著書】近世繪圖地圖資料研究会編『千島・樺太・蝦夷(7)』科学書院、霞ヶ関出版、2018年1月。
- 【定期刊行物】國岡健「授業実践 高校日本史 樺太アイヌの「移住」:樺太・千島交換条約に見る近代国民国家とアイヌ」『歴史地理教育』874号、2018年1月。
- 【定期刊行物】小正路淑泰「鶴田知也の樺太旅行(一九三九年九月):『樺太日日新聞』掲載座談会記録を手がかりとして」『社会文学』、2017年7月。
- 【著書】中川裕先生還暦記念論文集刊行委員会編集『ひろがる北方研究の地平線:中川裕先生還暦記念論文集』サッポロ堂書店、2017年6月。
- 【定期刊行物】古道谷朝生、笹倉いる美「木村捷司が描く樺太・オタスの北方民族:その背景と人々(3) 網走市立美術館所蔵作品より」『北海道立北方民族博物館研究紀要』27号、2018年3月。
- 【著書】北海道文学館『《サハリン島》2017:アントン・チャーホフの遺産』北海道文学館、2017年9月。
- 【著書】北海道立北方民族博物館編『千島・樺太アルバム:岡正雄・馬場脩』北海道立北方民族博物館、2018年3月。
- 【著書】山本晴彦『帝国日本の気象観測ネットワーク 4:樺太庁』農林統計出版、2017年6月。
- 【定期刊行物】山本晴彦「帝国日本における気象観測ネットワークの構築」『日本地理学会発表要旨集』2017年号、2017年5月。
- 【著書】吉原裕(編集解説)『資料集間宮林蔵東韃紀行諸本集』吉原裕、2018年1月。
- 【定期刊行物】劉淑如「異民族ロマンスのポリティックス:冬木憑の樺太小説「和人」試論」『日本近代文学会北海道支部会報』20号、2017年5月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

一研究プロジェクト一

(代表者五十音順)

■池田裕子……………教育史

[最終]池田裕子(東海大学札幌)「樺太における文化史研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、
2015-2017年度。

■小川正人……………先住民族史

[継続]小川正人(北海道博物館)「近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置:その歴史的
意味に関する基礎研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2016-2018年度。

■神長英輔……………漁業史

[新規]神長英輔(新潟国際情報大学)「近代東北アジア諸地域におけるコンブ漁業の比較研究」JFE21
世紀財団・大学研究助成金・アジア歴史研究助成、2017-2019年度。

■白木沢旭児……………日本近代史

[新規]白木沢旭児(北海道大学)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」科学研究費
補助金・基盤研究(A)、2017-2020年度。

■中山大将……………農業社会史

[継続]中山大将(京都大学)「境界地域史への地域情報学活用:サハリン島マイクロ歴史情報データベー
スの構築と応用」科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究、2016-2018年度。

■藤本健太郎……………外交史

[新規]藤本健太郎(京都大学)「戦前期サハリン島における日ソ関係史:開発と外交の相互関係をめぐ
って」科学研究費補助金・特別研究員奨励費、2017-2018年度。

■参考資料……………非会員による研究プロジェクト

[新規]竹松良明(大阪学院大学短期大学部)「戦前期の中国・樺太で刊行された日本語図書(文学関
係中心)の書目総覧の作成」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2017-2019年度。

[新規]中村和之(函館工業高等専門学校)「サハリンアイヌの総合的研究:その成立と変貌」科学研究
費補助金・基盤研究(B)、2017-2020年度。

[継続]日比嘉高(名古屋大学)「書物取次ネットワークと小売書店に関する研究:旧満洲・朝鮮半島・樺
太等を中心に」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2015-2018年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

サハリン・樺太史研究会会則

2015 年 6 月 21 日改正

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
 - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
 - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
 - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
 - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

世話人(若干名)・会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
7. 世話人は総会で選出し、世話人の互選により会長・副会長・事務局長を選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は 2 年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は 2015 年 6 月から発効する。本会則の改正は役員議を経たのち総会の議決による。

サハリン・樺太史研究会役員 (2017 年度末現在)

2015 年 6 月 21 日選出

2016 年 8 月 26 日追加選出(*)

2017 年 7 月 22 日追加選出(**)

会長： 白木沢旭児

副会長： 天野尚樹

事務局長： 鈴木仁

世話人： 池田裕子(**)、井澗裕、竹野学、兔内勇津流(*)、中山大将(*)

=====

サハリン樺太史研究会 2017 年度活動報告書

発行日：2017 年 7 月 31 日

編集者：中山大將

発行者：サハリン樺太史研究会

[公式 HP] <http://sakhlinkarafutohistory.com/home.html>

お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====